

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-293624

(43) 公開日 平成10年(1998)11月4日

(51) Int.Cl.^a

識別記号

F I

G 0 6 F 1/16

G 0 6 F 1/00

3 1 2 U

3/02

3 1 0

3/02

3 1 0 A

15/02

3 0 1

15/02

3 0 1 E

1/00

3 1 2 E

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平9-101292

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(22) 出願日

平成9年(1997)4月18日

(72) 発明者 荒川 敏

栃木県下都賀郡大平町富田709番地の2

株式会社日立栃木エレクトロニクス内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

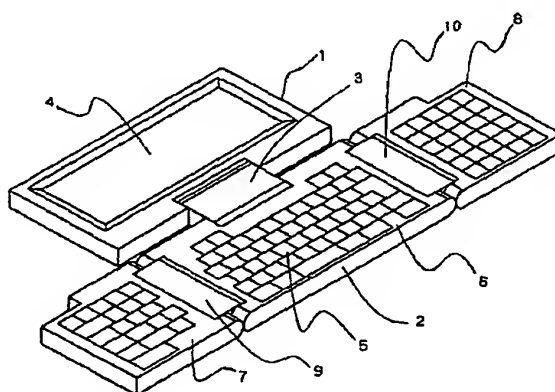
(54) 【発明の名称】 携帯型電子機器

(57) 【要約】

【課題】 携帯型電子機器においては、携帯性向上のためには入力装置部分を、出来る限り小型にする必要性があり、そのため、入力キーが小さく、使用者の入力作業がやりにくくなるという問題がある。

【解決手段】 入力装置部は、主部と少なくとも一つ以上の接続部、及び接続部により主部に回転自在に連結された少なくとも一つ以上の副主部とからなり、使用時には、主部に対して折り曲げられた少なくとも一つ以上の副主部が、主部と並列に配置出来るようにしたものである。

図 1



【特許請求の範囲】

【請求項1】携帯型の電子機器における、入力装置部を有する携帯型電子機器において、入力装置を備えた部分とその部分に対して回転自在に連結され、入力装置部に折り重ね得る部分とを備え、入力装置部は、主部と少なくとも一つ以上の接続部、及び接続部により主部に回転自在に連結された少なくとも一つ以上の副主部とからなり、実使用時には、主部に対して折り曲げられた少なくとも一つ以上の副主部が、主部と並列に配置出来ることを特徴とする携帯電子機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯型電子機器に関する。詳しくは、携帯型のワープロ、パソコン等の入力部を有する携帯型電子機器において、簡単な構成によって実使用時の入力部を広くできる携帯型電子機器を提供しようとするものである。

【0002】

【従来の技術】従来から、実開平2-32161号公報に示されるように、携帯型電子機器において、携帯性を向上させるために入力装置部は、表示装置部と回動可能に結合され、表示装置部と同一底面形状に成るように、入力装置部分は形成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記した携帯型電子機器においては、携帯性向上のためには入力装置部分を、出来る限り小型にする必要がある。そのため、入力キーが小さく、使用者の入力作業がやりにくくなるという問題がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明携帯型電子機器は、上記した課題を解決するために、入力装置部を有する携帯型電子機器において、入力装置を備えた部分とその部分に対して回転自在に連結され、入力装置部に折り重ね得る部分とを備え、入力装置部は、主部と少なくとも一つ以上の接続部、及び接続部により主部に回転自在に連結された少なくとも一つ以上の副主部とからなり、使用時には、主部に対して折り曲げられた少なくとも一つ以上の副主部が、主部と並列に配置出来るようにしたものである。

【0005】従って、本発明携帯型電子機器にあっては、不使用時には接続部により入力面側に折り重ねることによって、主部のしめる底面積分の大きさとなり、携帯性を向上させられると共に、実使用時には、主部と並列に配置された副主部により、入力装置部の底面積を拡大する事が可能となり、入力キーを大きくでき、当該携帯型電子機器の使用者による入力作業がし易くなる。

【0006】

【発明の実施の形態】以下に、本発明携帯型電子機器の詳細を図示した実施例に従って説明する。

【0007】図1は本発明の一実施例の実使用時の斜視図、図2は入力部のみを折り畳んだ斜視図、図3は携帯時の斜視図である。

【0008】この携帯型電子機器は、第一の部分1と第二の部分2、およびそれぞれを連結する接続部3に分かれており、必要な回路等がこれら各部分1、2、3に分けられて収納されている。

【0009】第一の部分1は薄い箱形をしており、一方の面（内面）に表示部4が形成されている。第二の部分2は、携帯時には第一の部分1の平面形状と同一となり、一方の面（内面）に入力操作部分5が形成されている。接続部分3は、第一の部分1と第二の部分2とを回転自在に接続し、携帯時はコンパクトに、使用時には開いて表示部分4を確認しながら、第二の部分2の入力操作部分5において入力等の操作を行うことが可能である。

【0010】第二の部分2は、主部6、副主部A7、副主部B8、およびそれぞれを回転自在に接続する接続部A9、接続部B10とからなっており、それぞれで対となり入力操作部分を形成している。

【0011】携帯時、不使用時には、第二の部分2の副主部A7（副主部B8）を接続部A9（接続部B10）により主部6に折り重ねるように折り畳み（図2参照）、接続部3により第一の部分1の内面（表示部4）を折り重ね、コンパクトに携帯性を向上することが出来る（図3参照）。

【0012】実使用時には、第一の部分1を接続部3を中心に回動させ、表示部4を確認できる状態とすることが出来る（図2参照）。

【0013】さらに、第二の部分2の主部6と並列に、副主部A7（副主部B8）を接続部A9（接続部B10）により主部6と並列に配置することが出来、入力部5を広くすることが出来る。

【0014】図4は従来の携帯型電子機器の実使用時の斜視図である。

【0015】

【発明の効果】以上に記載したところから明らかなように、本発明携帯型電子機器は、携帯型のワープロ、パソコン等入力装置（フルキーボード等）を有する携帯型電子機器であって、実使用時には入力部分を広くすると共に、不使用時にはコンパクトに折り畳み、省スペースでの保管を可能とし、且つ携帯性を向上させられる、携帯型電子機器を提供することが出来る。

【0016】尚、上記実施例では、表示部を単なる表示部として示したが、表示部にタッチパネル等の入力装置を備えたものにすれば、携帯時の入力が可能となり、操作性が向上することは勿論のことである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例として示した全体斜視図。

【図2】本発明の一実施例の閉時を示した全体斜視図。

【図3】本発明の一実施例の携帯時を示した全体斜視図。

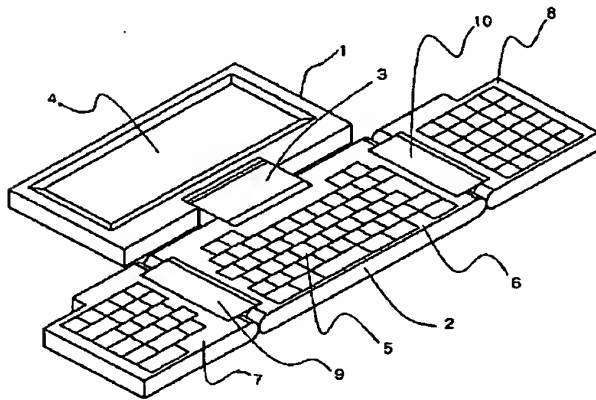
【図4】本発明の一実施例の従来例として示した全体斜視図。

【符号の説明】

1…第一の部分、2…第二の部分、3…接続部分、4…表示部分、5…入力操作部分、6…主部、7…副主部A、8…副主部B、9…接続部A、10…接続部B。

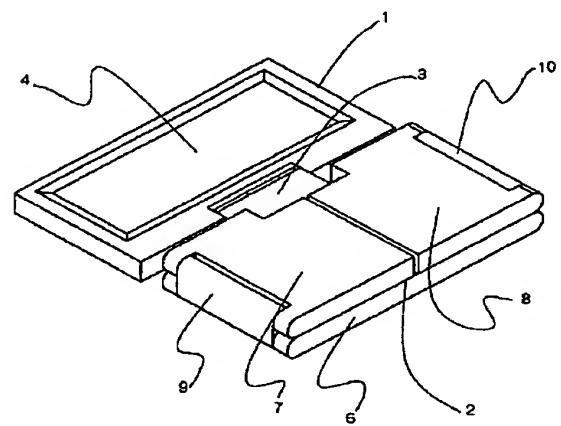
【図1】

図 1



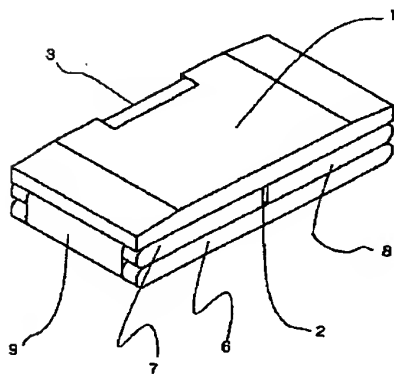
【図2】

図 2



【図3】

図 3



【図4】

図 4

